



いのちの日便り

2018・6・15
いのち推進
プロジェクト
No. 3

「読み語り」

6月7日（木）の「一中いのちの日」では、友達や家族の大切さ、自分の生き方や生命について考える本など、「いのち」に関する本の中から、各学級の担任による読み語りが行われました。

1年

クラス	担任	書物名	著者名
1組	岡崎 裕子	どんなかんじかなあ	中山 千夏
2組	田口 俊	命を見つめて	中学生 作文
3組	今 千春	世界一清潔な空港の清掃人	新津 春子
4組	村山 隆太	ハードワーク	エディ・ジョーンズ

2年

クラス	担任	書物名	著者名
1組	須賀 信子	いのちをいただく	内田 美智子
2組	大場 薫	ウエズレーの国	ポール・フライシュマン
3組	齋藤 ひとみ	Love you forever	ロバート・マンチ
4組	※櫻井 雅人	世界一貧しい国の大統領のスピーチ	ムヒカ ウルグアイ前大統領
5組	柏倉 宏	にじいろのさかな	マーカス・フィスター

※2年4組担任 眞崎先生が不在のため

3年

クラス	担任	書物名	著者名
1組	三瓶 大輔	ぼくたちはなぜ学校へ行くのか	石井 光太
2組	長岡 緑	からすのパンや 二つ目の職業として(朝日新聞記事)	かこ さとし
3組	岩田 栄彦	答えは一つとは限らない	広瀬 之宏
4組	武田 明美	ランドセルは海を越えて	内堀 タケシ
5組	※山崎 運平	私、舞台を降りない!	萩生田 千津子

※3年5組担任 岸野先生が不在のため

ひまわり

クラス	担任	書物名	著者名
1組	鈴木 秀人	高倉健 ラストインタビュー	野地 秩嘉
2組	上田 智佳子	食べているのは生きものだ	森枝 卓士
3組	竹俣 久美子	ひろしまの河	小園 愛子

～生徒のみなさんの感想より～

「自分がもしこうだったら…」ということを考えて、実際にやってみることで、人がどういうことを考えてどういふことを感じているのかを知れた。すごく大切にその人のことをしっかり考えることができるんだと思いました。

(1年1組 堤 理桜菜さん)

はじめヒロ君は普通の男の子で、友達がどんな風に生活しているのか知りたくて、いろいろためしていたんだと思いました。でも実は体が不自由で、車イスだったことを知ってビックリしました。前に聞いたのですが、例えば、目が見えない人はその分耳が良かったりするそうです。お互いを分かり合って生活することが大切だと感じました。

(1年1組 森谷 つむぎさん)

この文章を読んで、「今、生きている」ということがどれだけ幸せか改めてわかりました。見て見ぬふりをすることは悪を応援することになります。僕は悪者ではなく正義を応援したいです。命を軽く考えず、「今、生きていること」を感謝したいです。

(1年2組 大風 空さん)

自分が生きていくために他の動物のいのちをいただくのは、必要なことだけど少し悲しくなりました。これから食べ物に感謝をして食べていきたいと思いました。

(2年1組 岡部 梨央さん)

この話を聞いて、命の尊さや周りを思いやることの大切さを再確認できました。自分のことだけを考えるのではなく、今自分は何ができるのか、何をすればいいのかをよく考えて生活していきたいです。

(2年5組 会田 和彩さん)

にじいろのさかなの話聞いてやっぱり1人ではなにもできない、1人じゃなくみんなといたほうが幸せなんだと思いました。にじいろのさかなみたいに大切なのは、宝じゃなくて仲間と一緒にいることなんだなと私は思いました。

(2年5組 大塚 夢美さん)

普段学校に行くのがつらい時や、勉強がしたくないと思うことがあるが、それはとても贅沢なことだと思った。自分が恵まれているということをお忘れずに生活したい。

(3年1組 武田 梨花さん)

私は、学校へ当たり前に通っています。でも世界には学校に通っている人のことを羨ましく思っている人が沢山います。なので当たり前に通っている私たちは両親に感謝し、学校で勉強、友だちと遊び、自分の言葉を見つけていこうと思いました。

(3年1組 山口 夢乃さん)

かこさとしさんは戦後、子どもたちが悲しみにくれている中で、夢を与えた素晴らしい方だと思いました。からすの夫婦は子どもの世話で忙しいのに皆の期待に応えようと必死に働いている姿に胸を打たれました。

(3年2組 本田 祥太郎さん)

からすのパンやさんは作者であるかこさとしさんが子どもたちを楽しませ笑顔にさせたいと思い描いた絵本なのだろうなと思いました。作者は子どもたちが毎日笑って過ごせる平和な世の中を望んでいたのだと思いました。

(3年2組 堀井 綾乃さん)

